

第2回 湖西市バス運行評価改善委員会 会議録

日 時：平成30年11月20日（火）10時00分～

場 所：湖西市市民活動センター2階大会議室

出席者：15人

委員長	伊豆原 浩二	愛知工業大学 客員教授
副委員長	疋田 隆	湖西市自治会連合会
委員	竹内 誠一	湖西市老人クラブ連合会
委員	吉原 博明（欠席）	湖西市社会福祉協議会事務局
委員	柴田 和利（欠席）	湖西市商工会
委員	田中 明彦	新居町商工会
委員	白井 幸倫	湖西市小中学校PTA連絡会
委員	河邊 登	公募市民
委員	藤井 早苗	公募市民
オブザーバー	保本 広司	国土交通省中部運輸局静岡運輸支局
オブザーバー	山崎 友寛	静岡県地域交通課
事務局	小林 廉	遠州鉄道(株)運輸業務部
事務局	松田 真幸	遠州タクシー(株)
事務局	良知 正規	浜松バス(株)
事務局	疋田 行彦	湖西市 企画部 市民協働課長
事務局	佐原 敬	湖西市 企画部 市民協働課 課長代理
事務局	伊藤 明生	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係

配付資料： 会議次第

資料1： 湖西市の財政状況とコーちゃんバスの経費などについて

資料2： OD調査の分析結果について

資料3： 平成30年度湖西市バス運行評価改善報告書（素案）

資料4： 平成30年度湖西市バス運行評価改善報告書に係る減便を含めた見直しを検討する便に関する基準（案）について

1 開会

2 委員長挨拶

前回の議論を踏まえた上で事務局からの提案という形となっております。ただ、評価という問題は皆さん考え方が色々あるのではないかと思います。ある意味しっかりチェックを必ずして、アクションに繋げていく。いわゆるスパイラルアップをするための作業というイメージでいます。そうは言っても、財政状況が非常に苦しい中で公共交通というサービスを提供していく中で、どううまく持続可能というか、これから継続してサービスを展開する上ではどうやったらいいんだというあたりは、大変難しい問題に差し掛かっているわけでありまして。これは全国のほとんどで同じ状況に陥ってきたということです。実は先日、シンポジウムがありました。車社会に甘んじてきたツケが回ってきたことをちゃんと見なければならぬ。財政を含めた次の情報社会を作り出していくことが大事だということです。サービスを上げるということもあると思います。もうひとつは、市民の方にこういう状況であるということを伝えることもすごく大事だと思います。ご忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 湖西市の財政状況とコーちゃんバスの経費などについて

<事務局>

- 資料説明（資料1）

<委員>

- 交付税なしということはこんなに早く分かるのですか？

<事務局>

- 湖西市につきましては、不交付団体ではあります。しかし、新居町との合併によりまして10年間交付税があるという中で、それが32年度からなくなるという見込みが立っているということになります。

<委員長>

- 合併後10年というのは当たり前の話で、ゼロになることが分かって合併している。それを理由にするのはいかななものか。コーちゃんバスの経費について国庫補助金が少なくなってきた。それは当たり前の話で、問題は利用者が伸びてきていない。それがゆえに負担が増えてしまう。もちろん、無料乗車券の利用者がだんだん増えてきた。サポートとしては、むしろ良いことだと思う。だから、収支率は下がるんです。収支率が上がれば良いという答えを持ってくるのは良くない。利用者が増えれば解決される。そこを市民の方に言わなければいけない。公的負担が増えてる。財政がどうか、それをうまく情報提供して市民の方に乗って頂く。そうすると、収支率も上がる。良い方向に向く。それをアウトプットすべき。

(2) OD調査の分析結果について

<事務局>

- 資料説明（資料2）

<委員長>

- 各路線で使い方違うんだなということが一つ。65歳以上の高齢者の利用が少ない。どちらかという、若い方が利用されている。他の市はだいたい7~8割が高齢者が利用し、若い方が利用されていない状況。湖西市はだいたい5~6割が高齢者。良い方向と取るのか、悪い方向に取るのか難しいですが、少なくともコーちゃんバスをみんなで使えるようにしましょうとコーちゃんバスを始めたひとつの経緯がありますが、そういう意味では色んな年齢層で利用されていることは、ある意味では評価できるでは。
- ODで固定化されているイメージがあり、利用区間が限られているイメージ。せっかくいっぱいバス停を作ったけど利用がされていないのでは。次のステップの改善としてはこれをどう見るか。使えないのか。使いにくいのか。使わないのか。経路、ダイヤ、バス停の位置を一度整理しなおしていく必要があるのでは。

<委員>

- 新所原駅について、実際には北口、南口、どちらのことを言っている？両方のことを言っている？

<事務局>

- バス停は北口のみにあります。

<委員>

- 新所原駅の周辺整備が完成したら、南口にも停まるよと言っていた。路線によっては南口に停車した方が良い場合もある。ぼちぼち地元との約束を守って頂きたい。

<委員>

- 遠鉄バスが無くなったから仕方なく使っている方もいる。高齢者の利用が減った理由があるはず。何に依れば利用者は戻ってくれるのか。そういった部分も調査し反映させていかないと改善策は出てこないのでは。
- 病院では曜日によって受診者は違うと思う。2日間だけで判断は中々難しいのでは。

<委員>

- OD調査について、なるべく市の職員も一緒にやって、生の声を聞くというような姿勢を見せていただいて、がんばってほしい。

<委員長>

- 私は、データをちゃんと押さえておけば良いと思います。この日は何があったかを押さえておく

必要があると思います。例えば、この日は工事現場があったとか、スーパーで割引があったとか。病院もその日の状況を書いておかないといけないんですよ。結局、何日にやりました、だけでは後から読んだ人は分からないですよ。天候とかも必要ですよ。

(3) 平成30年度湖西市バス運行評価改善報告書(素案)の精査

<事務局>

- 資料説明(資料3.4)

<委員長>

- 来年度やっていきたいというのは行政側になるので、委員会のレポートとしては言葉が違うのは、来年度検討すべきこととか、言葉を考えて頂きたい。
- 資料4については、どういう扱いをすれば良い?

<事務局>

- 担当としては、来年度の部分に「評価改善委員会で定めた基準」と記載しております。資料4がないとよく分からなくなってしまうので、素案の中に加えるということで考えております。

<委員長>

- 路線の話と便の話が混ざっている。今年度の評価改善委員会では、便を対象としているのでは。路線の再編・廃止となると大きな話になるのでは。

<委員>

- フローチャートですが、上から来て最後に便の継続が来ている。

<委員長>

- 今のデータを見てからこのようなフローが論理的に順序立ててできていない。逆に言うと、この便を継続運行するとすればどういった条件があるかを整理すれば分かりやすいのでは。

<委員>

- フローチャートの途中で路線の再編などがあって、その下に便の継続運行があるのは変ではないか。こういう場合はこうなりますよといった形の方が良いのでは。

<委員>

- 例えば、路線の主たる利用目的と時間帯が合致しているかについて、事例をひとつあげるとすればどんなことになる?

<事務局>

- OD調査の結果で路線ごとの主たる利用目的が分かっております。例えば買い物であれば、3時くらいまで買い物をして帰宅するというイメージがありますので、その中でお昼前後の便を見直

しをすると、主たる目的である便を削ることになりますので、そういった場合は残しましょうというイメージで作成しております。買い物が主たる利用で、17時、18時台の便が対象となった場合、中々使われにくいのではないかとイメージで作りました。

<委員長>

- 逆に言えば、定時定路線で行く限りは帰りの便を作らなければならない。それが合うか合わないか、誰が判断する？大きな表現としてはこれがあるよね。次にこれがあるよね。セレクトする条件を並べてどれが先に優先度が高いかを整理していかないといけない。詰めなければならないことを整理して並べるのか、それともこういう条件に該当した場合は継続運行する。こういう条件は見直しの対象とする。どちらかの様に修正しては。

<委員>

- 経路の変更（乗降があるバス停からの発車・停車）について、改善策も組み込まれてますよね？路線の継続運行については、何も改善をせずにそのまま運行することになりますよね？例えば、継続するにしても何かしらの改善策を加えるなどしたらいかがでしょうか。

<事務局>

- この会である程度基準を作って頂きまして、対象となった便につきましては、公共交通会議の中で判断・調整させていただこうと考えております。

<委員長>

- それを記載した方が良いですね。今回は便を対象にしますとか具体的な改善策については公共交通会議で検討してもらおうとか。

<委員>

- 便を止めますという所については一番最後に止めてしまう場合だけ書いてある。便の継続運行の下に改善策を模索していくなどと書いた方が良いのでは。

<委員長>

- フローについては、もう少し分かり易く作り直す必要があるのではないと思う。また、平均乗車数という言葉はどういった意味であるとかを少し整理する必要があると思います。
- また、評価改善委員会で定めた基準を用いて見直しの方針を定め、3ヶ月の利用促進を行い、その後改善しなければ公共交通会議にて減便を含めた見直しを協議すると。こういう言葉ですがよろしいですか？方針を定めと書いてあるが、誰がやるのですか？

<事務局>

- 事務局がやります。このフローチャートを基に事務局が1便毎に振り分けて、その後継続運行以外については、利用促進を行い、平均利用者数が改善されなければ公共交通会議にて協議を行うことで考えております。

<委員>

- この会では言い切りにならないように気をつけたほうが良いと思う。見直し方針の中で減便と書いてある。減便を検討としたほうが良いのでは。

<事務局>

- もう一度フローチャートから言葉尻まで再検討いたします。

<委員>

- 来年度やっていきたいことについて、「評価改善委員会で定めた基準を用いて見直しの方針を定め、3ヶ月の利用・・・」と続いています。一度切った方が良いのでは。これだと対象全ての便が利用促進を行うようになる。実際には、継続運行以外は利用促進は行わないことになっている。

<委員長>

- もう少し文章を丁寧に短くするように見直しをした方が良い。もう1回ありますので、もう一度整理させていただいて、こういうもので見直しの基準を作っていきたいという意図はわかりました。文章については、もう一度見直しをお願いします。また、P60の浜名線についても箇条書きで書いた方が見やすい。

<委員>

- レイアウトについて、決まりがないのであれば字体を変更したりなどもう少し見やすい資料にしてくださいと思います。

<委員>

- 全ての学校が通学に利用しているかは分かりませんが、使っている子供たちが大きくなっている時にバスの利用が根付いているのか分かっているのであれば知りたい。後は、小学生の通学でこの地区は使いましょうとかはありますか？

<委員長>

- このあたりは教育委員会の関係ですか？

<事務局>

- 教育委員会の関係になると思われます。

<委員長>

- 教育委員会との連携は非常に大切で、スクールバスの関係など色々な心配はあると思います。教育委員会などの連携を取ってください。また、公共交通は関連部局との連携が必要になります。こういった資料もやり取りする必要があると思います。

<事務局>

- 長時間にわたりありがとうございました。ご審議いただきました議題3の件につきましては、一度事務局の方で持ちかえらせていただきまして、修正し、報告書の最終案という形でご提示させていただきたいと思っておりますので確認のほどよろしくお願いいたします。3回の委員会につきましては、12月11日の10時から同じ場所で開催させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

閉会